

学校事務職員としての理想と現実

～ 変えることの難しさ～

福島市立平野小学校 主事 遠藤美和

1. はじめに

私は採用されてから今年で10年目です。目の前の仕事をこなすのに精一杯の日々を送っている状態で「特色ある学校づくり」へ参画するために何かやらなければ...」と思い、少し試みてみたが、何かを変えることの難しさを学んだことが今回の発表である。

2. 子どもの学びへの支援とは

地区の「事務会計グループ」の試みへの関わりと財政面からのサポート

(1) 地区の「学校会計グループ」での研究

「学校会計ハンドブック」の作成

学校会計一覧とチェックリストの問題点

(2) 学校での実践

校内会計の現状

学級費の通帳の作成

3. 変えることの難しさ

(1) 市費の教科ごとの予算配当

(2) 学校会計の見直し

学級費の通帳を作成

会計担当としてチェック

学級費の監査の実施

4. 今後の課題と私たちの役割

(1) 学校の全ての会計を把握

(2) 子どもの学び(学校教育)への支援 = 学校事務職員の存在

「特色ある学校づくり」への参画をめざして

～個人の資質との適合がもたらすもの～

石川町立中谷第一小学校 主査 猪狩昌恵

1. 本校の「特色ある学校づくり」テーマ

- (1) 省エネルギー教育推進モデル校への参加とそのねらい
- (2) 授業での具体的な取り組み

2. 学校事務職員としてできること

- (1) 職務を通して
- (2) 個人の資質向上・興味関心を通して

3. 参画への取り組みの実践と実際

- (1) 教職員に対するアプローチ
- (2) 児童生徒に対するアプローチ

4. これまでの反省

- (1) 教職員との連携
- (2) 実際の効果は？

5. これから求められるであろうもの

学校事務の質的変換

～ 保護者の立場になって変わったこと ～

田島町立田島小学校 主査 渡部岩吉

1 はじめに

2 事務職員としての学校教育への関わり

(1) 子どもの学びを支援する学校事務

学校予算の確保と効果的な執行

子どもの視点からの予算要求

生徒指導との連携

(2) 地域とともに歩む学校づくり

P T Aとの関わり

保護者の視点に立った学校事務

(3) 学校経営スタッフとして

校務運営委員会

南会津郡小中学校事務研究協議会の取り組み

ア 第2次研修計画について

(ア) 成果と課題

(イ) 今後の方向性

3 最後に

(1) 学校事務の連携

自分にできることから ～ For children ～

いわき市立平第一小学校 主査 齊藤涼子

1. はじめに

毎日の学校生活の中で、私たち事務職員は手段や方法は違っても、子どもたちが充実した学校生活を過ごせるようにという思いや願いを込めて、教育支援を行っている。

そんな思いを込めながらの現任校での、一年間の勤務の中で私が問題点として感じたことは、

教員の予算や教材教具に対する意識や認識が希薄である

会計事務が徹底されていない。計画的予算要求がされない

事務職員側からの財務会計に関する説明や積極的な働きかけをする機会が少ない

教材教具の保管状態が悪く、計画的な備品廃棄がされていなかった

学校予算の無駄が多かった

子どもたちが安全で楽しい学校生活を送り、その中で生き生きと学ぶことができるようにするために、毎日の教育活動に支障をきたすようなこれらの問題点は早急に解決していかなければならないと考えた。そのためには自分に何ができ、何をすべきなのかという自問自答のなか、今の自分にできることから始めようという思いが膨らみ、小さな一歩をスタートさせた。

2. 事務職員としての取り組み

(1) 教育課程編成と連動させた予算要求事務

(教育課程編成組織に教育環境整備・予算部会の設置 教育課程編成作業との係わり)

(2) 備品検討会(予算委員会)の開催

(3) 教育環境整備・備品照合の位置づけ

(4) 学校エコライフの実施

(5) 会計事務・備品管理事務の運営計画を作成。教育計画に入れ共通理解を図る

3. 実践の成果

(1) 教育課程編成作業への参画により教育課程と結びつけた予算要望・計画的執行体制の確立

(2) 空き教室や準備室が整理整頓され、教材教具の有効活用に適応する教育環境の実現

(3) 予算や学校の無駄をなくす取り組みによる教職員の意識の変化。学校全体への普及

(4) 企画委員会(運営委員会)・服務倫理委員会への参加により、学校経営事務への参画体制の確立

4. 今後の課題

人事異動により毎年メンバーが変わる中で、年度を越えた予算要求事務がどの学校でも実施されるようになれば、教員側からのより積極的な働きかけが期待でき、学校が変わっても誰もが戸惑いなく適正な予算要求が出来るようになるのではないだろうか。そのためには財務会計に対して管理職の理解と協力なくして実現はありえない。事務職員は自分の思いや願いを常に教職員に伝える努力を惜しまず、管理職や教員の意識を変える積極的アプローチをし続けることが必要である。また職務確立の観点からも学校経営事務への参画を目指した積極的取組みの必要性を強く感じると共に、自分に求められていることを的確に判断し相互連携を深めていくことが今後大切だと考える。